



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	ナッジ理論から考える放射能に関するリスクコミュニケーション
Alternative_Title	Risk communication about the radioactivity considered by nudge theory
Author(s)	大谷 浩樹(帝京大学)、中川 凌(帝京大学)、日野 俊平(帝京大学)、渡邊 拓也(帝京大学)、宮前 琴葉(帝京大学)、伊佐地 誠彦(帝京大学) Otani, Hiroki(Teikyo Univ.); Nakagawa, Ryo(Teikyo Univ.); Hino, Shunpei(Teikyo Univ.); Watanabe, Takuya(Teikyo Univ.); Miyamae, Kotoha(Teikyo Univ.); Isaji, M.(Teikyo Univ.)
Citation	第9回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.64 The 9th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	ポスターセッション6: その他
Text Version	Publisher
URL	https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/208766
Right	© 2020 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第9回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



ナッジ理論から考える放射能に関するリスクコミュニケーション

Risk communication about the radioactivity considered by nudge theory

大谷浩樹、中川 凌、日野俊平、渡邊拓也、宮前琴葉、伊佐地誠彦

帝京大学 医療技術学部 診療放射線学科

H.Ohtani, R.Nakagawa, S.Hino, T.Watanabe, K.Miyamae, M.Isaji

Teikyo University

1. はじめに

放射能に関するリスクコミュニケーションは正しい情報の共有が大切にもかかわらず、放射能による心身影響の相互理解でとらえ方が異なる。また、それぞれが抱く不安は放射能の知識を得たとしても繰り返す傾向にあり、他者からの言動により容易に変わる。本研究の目的は、ナッジ理論に基づき人々に向けられた言動とその後の行動からリスクコミュニケーションにおいて有用とされる言動を抽出することである。

2. 研究方法

2019年度第3回NHK番組アーカイブス学術利用トライアルを利用して、原発事故後の放射線・放射能に関する番組を視聴した。NHK番組を研究に用いる場合の倫理的配慮は、NHK番組制作時および放送時において出演者へなされており、同時に学術利用トライアルとしての使用許可を得ている。方法の第一段階として言葉の文字起こしを行い、ナラティブ分析により心の揺れ動きからコードを選択し共通性を見出した。さらにナッジ理論となる可能性が見られた言葉を抽出した。ここでナッジ理論とは、ふとした言葉や作用により人間の行動が変化するものであり、今回抽出された言動はナッジ言動と呼ぶことにした。第二段階として、ナッジ言動とみられる状況の前後の言動をVTR中にてチェックした。その言動によって行動変化が現れた事例を分類し、行動放射能心理の変化およびコミュニケーションとして有効に用いられる言葉を分析した。第三段階として、得られたナッジ言動をリスクコミュニケーションで用いるための具体策を考えた。

3. 研究結果および考察

抽出されたナッジ言動と行動放射能心理の一部を表1に示し、同時にリスクコミュニケーションの具体策を掲げた。行動変化が現れた行動放射能心理を「安心させる項目」「不安にさせる項目」「意志を保てる項目」「知識を確認できる項目」「孤立させる項目」の5項目に分けられ、リスクコミュニケーションとして交わされる言葉がそれぞれの項目において抽出できた。

表1 ナッジ言動とリスクコミ具体策

分析コード	ナッジ言動	行動放射能心理	リスクコミ具体策
放射線情報	線量は分からない	行動範囲停止	測定してみよう
	数値が高い低い	遠ざかる	基準を調べよう
不安と向き合う	被災者だよね	挨拶さえ避ける	経験は自分のためになる
	体内汚染	自分も汚染されたか	おそらく汚染の可能性は低い
子どもの不安	ほら頑張ってる	ぬいぐるみ持ってきた	仲良しといるといいね
	あなたのため	何も言い返せない	わからなくてもいいのよ
原発避難いじめ	何でも言って	言えるわけない	言えなくてもいいんだよ
	福島だから	自分を押し殺す	笑顔を作ろう、知識をつけよう
	頑張れ、大丈夫	行動が止まる	頑張れって言わない

4. まとめ

放射線に関するNHKの番組における人々言葉からナッジ理論に基づいた言動を抽出できた。直後の行動放射能心理を記録しリスクコミュニケーションの具体策を上げることができた。ナッジ言動は多くのものが存在し状況に応じるため、たえずデータをして得ていくことが重要である。本研究によりナッジ理論を放射能に関するリスクコミュニケーションに使用する一助となった。

5. 参考文献

- 1) 緒方裕光：リスクコミュニケーションにおける情報の伝達手法に関する研究，厚生労働省科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業、平成24年度総括・分担研究報告書
- 2) C・K・リースマン：人間科学のためのナラティブ研究法，クオリティケア出版，2014
- 3) 佐藤 彰 他：ナラティブ研究の最前線，株式会社ひつじ書房，2013